



# 和紙サイズ

わしさいず

## 各種和紙サイズ

種類	寸法 (mm)
半紙判	333×242
美濃判	394×273
小判	900×600
画仙紙全紙	1366×670
半切	1366×335

## 雲肌麻紙サイズ

種類	寸法 (mm)
小判	1360×670
三六判 (中判)	1880×970
三六判耳付	1960×1060
四六判	1820×1210
五七判	2120×1520
六八判	2420×1820
七九判	2730×2120

## 版画用紙サイズ

種類	寸法 (mm)
正草鳥の子紙罌水引き	耳付き 970×666
版画生漉西伊勢罌水引き	耳付き 939×630
半草鳥の子罌水引き	耳付き 970×666
生漉西の内四つ巾罌水引き	耳付き 1110×720
雁皮鳥の子厚口	耳付き 760×560
局紙ロールナシ白口	636×469
生漉奉書	耳付き 620×490
版画生漉細川紙厚口	耳付き 900×600
版画生漉周桑厚口 (生)	耳付き 900×600
版画生漉程村紙罌水引き	耳付き 900×600
版画生漉美濃	耳付き 909×606
薄美濃紙	780×540
西の内判	336×485
程村判	485×333
細川判	424×303
局紙	680×500
大奉書	520×390
新鳥の子紙白*	1091×788 (四六判)
新鳥の子クリーム厚口*	1091×788 (四六判)

\*機械漉き・バルブ混

## 概要

和紙は、古来、中国から伝えられ日本で発展した紙です。サイズは、基本的には紙を漉くための道具である漉簀(すきず)や桁(けた)の大きさによって決まります。これらの道具の大きさは、漉き手による工夫や特注として作られるなど統一した規格がなく、様々なサイズの和紙が存在する原因になっています。

ちなみに、和紙の全紙(原紙)サイズとは、一般的に漉いたまま裁断加工していない状態の大きさを指します。「切」や「裁」「折」といった単位は、全紙からいくつに裁ち切ったかを示しています。また、三六判、四六判などの名称は、短辺と長辺の長さを尺寸法(一尺=30.3cm)により表しています。なお、紙の「耳」とは、一般的に製紙工程で裁断して取り除く部分をいいます。半紙は、大半紙や小半紙などありますが、紙の長辺を半分にしたことから半紙と呼ばれています。現在は主に半紙判が書道などに用いられています。

美濃紙は、江戸時代には徳川御三家の専用紙とされ、美濃判とはその判型で、半紙判よりひとまわり大きくなっています。

小判は、種類や生産地を問わず、原紙として漉いた紙より小さなものを全てを小判と呼び、寸法の基準はありません。

画仙紙全紙とは、一般的に小画仙・中画仙・大画仙という種類の中の小画仙の全紙判を指します。また、半切(半折)とは、全紙判の長辺を縦半分に切った紙をいいます。

あ  
か  
さ  
た  
な  
は  
ま  
や  
ら  
わ  
A  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z  
数  
字